



き

ら

め

き



全国老人福祉施設協会

第9回 フォトコンテスト

入賞作品

『結びの一番！！』

第42号

各事業所ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://hakukou-kai.or.jp/>

各事業所のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成 29 年 3 月 15 日 社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく ケアホーム COCO	〒299-1607	千葉県富津市湊 1070-3	☎ 0439-67-3711
豊岡光生園 相談支援センター天羽	〒299-1742	千葉県富津市豊岡3535-1	☎ 0439-68-1711 ☎ 0439-68-1833
三芳光陽園	〒294-0825	千葉県南房総市上堀 280	☎ 0470-36-3211
鴨川ひかり学園 ひなたホームズ	〒299-2854	千葉県鴨川市代 1297	☎ 04-7099-3311
湊ひかり学園	〒299-1607	千葉県富津市湊 934-18	☎ 0439-70-6551

# 調文語

『薄光会としてのDNA』

十一月二十五日、一月十五日の二回の評議員会、理事会で審議いただき、承認され、県の担当課に提出した定款変更が認可された。事務局としては、大きなヤマを一つ越えたといったところだ。

いわゆる社会福祉法人制度改革に関わる変更だが、平成二十九年四月一日より社会福祉法人の組織の形が大幅に変わることになる。

諮問機関として位置づけられていた評議員会は、決議機関へ変わり、決算や事業報告に対し総合的なジャッジメントを下すことになる。評議員については、『利用者の立場に立った事業経営を図る観点から、利用者の家族の代表が加わることが望ましいこと』とされていたが、新たに国から示された要件は、『社会福祉法人の適正な運営に必要な識見を有する者の中から定款の定めにより選任』としか示されていない。

理事会は、すべての業務執行の決定を行うことになるが、理事については『社会福祉事業の経営に関する識見を有する者、事業を行っている区域における福祉の実情に通じている者、その法人が施設を設置している場合は、その施設の管理者』が要件とされ、法人の職員の中に、それぞれの資格要件に該当する三名がいるのであれば、全員が法人の職員であることも可能であった。

薄光会は、利用者の親たちが立ち上げ、親と職員、関係者が協働で、利用者の当事者性を担保してこのことを最重要課題として運営されてきた。意思を表すことが難しい利用者たちの代弁者とし、保護者の方々に役員として法人運営に参加していただいていたが、今回の制度改革で法人に

求められる業務執行に対する責任や強化された罰則規定を考えていくと、理事は、実際に事業所の運営に携わっている施設長が担うべきであり、評議員は、法人の成り立ち、理念、ビジョン、方向性に親和性と共感を持ち、法人事業に対して、暖かく見守っていただけるとともに、大所高所「モンセンスからの忌憚のない意見と指摘をしてくれる方々を選任していく」という方針を経営会議で確認し、定款変更の作業を進めていくこととなった。

厚生労働省から示された定款変更にあたっての定款例の備考に、小さい字でこう書かれていた。

◎運営協議会（地域や利用者の意見を法人運営に反映させるべく、地域の代表者や利用者又は利用者の家族の代表者等を構成員として社会福祉法人が任意で設置するもの）を設ける場合には、定款に次の章を加えること。

これを、定款にしっかりと位置づけ、保護者の方々、地域の方々と法人の意見交換や協議の場にできればと考え、定款変更の原案作りの一回目から、事務局案には、しっかりとした一つの章を構成し『運営協議会』を規定することとなった。運営協議会の詳細については、現在「定款細則」に織り込むべく、作業を進めている。概要は以下の通りである。

◎利用者に対する種々の分野にわたる福祉の増進を図るための事業展開、支援・介護業務の質の向上について、法人設立以来基本としている利用者本人と保護者・家族および後見人等と、支援・介護に携わる職員の「協働」という原理・方針に基づいて協議し、意見、要望、改善の指摘、提案などを法人・事業所運営に反映させることを目的とする。

◎広く地域の方々の意見を取り入れるために、一人以上の地域代表を構成員とする。

◎法人の新たな事業展開や事業所のハード面の改変、支援・介護の体制や体系の大きな改変については、意見を聴取し、賛同を得る。

◎事業計画、事業報告の周知と法人組織（評議員、理事・監事）の改選、法人人事（施設長・管理者等）についての報告。

◎国、県、市町村とのやり取り、法令、制度の改正などの大きな事案についての報告。

◎相談支援事業所関係についての総合的動き、その他、各事業所の日常の運営状況の報告等である。

一月の理事会前、事前審査ということで提出した新定款案について、県の担当者より問い合わせがあった。

「内容は問題ないのですが、薄光会さんは珍しいんですが、運営協議会を作るのですね」と。他法人も利用者や保護者、地域の意見を聞く場を、薄光会とは違う方法で設けることは間違いないと思う。ただ、薄光会は、定款にしっかりと『運営協議会』を位置づけ、法人の意思決定過程に組み込んだということだと考えていただきたい。それが、薄光会の運営信条、親が立ち上げ、親と職員、関係者が協働で福祉事業を起こすっていくということ。時代に向き合い、時代の思潮を批判的に取り入れながら、次の世代に引き継いでいく「薄光会としてのDNA」と考えるからである。（太字は、鳥居理事長提出の理事会資料より引用）



事務局長 神谷 亨

# 園だより

## 『いじんの言ひ』

「オッスー！」

俺の名前は「達雄」ってんだ。

怖いものなど何もない、と言いたいところだが、最近月曜日と木曜日が少し憂鬱なんだ。なぜって、だんだんと「ジヤヒザ」が固まって動かなくなってきたので、マッサージを受けなければいけないんだ。コーシユクって言ってたかな。



マッサージのあとは、なんだか少しだけ動きやすい。気持ちいいかって？ とんでもない、これが痛いんだ!!俺も男だ、最初は我慢していたんだが、辛抱できずに「イテエ、コノヤロー」

思わず叫んでしまった。俺のかすれただみ声が聞き取れたかどうかは分からないが、マッサージの先生は笑顔で声を掛けてくれた。

先生は、俺のために熱心にやっている。だから、特には咎めない。だけど、隣で見ていた職員は許せん。ニタニタおかしそつに笑っている。

「昔の達雄さんと変わらないね」だと。

昔の俺。そう、俺は光生園のカールルイスって言われていた。職員なんかぶっちぎりだったぜ。

腕力も強くて、けっこうダーティ・ハリーだったかな。でも、女の職員にはもてたんだぜ。それが、光生園

に来る前からの長年の無理がたたって、爺さんになる前に首や足腰にガタがきてしまったってわけや。

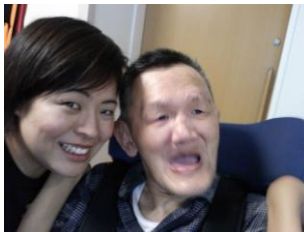
でも、いまだに気持ちは昔のまま。流石も高倉健に負けないと思っている。なのに、痛がる俺の姿をニタニタ笑ったりして……。

いやいや、そつか、久しぶりに大きな怒鳴り声をだしたんで、昔の俺を思い出し、こわもての俺が変わっていないのが嬉しかったのか。まだまだ俺も捨てたもんじゃねーな。な、そつだろつー!

\* \* \*

横で見ていて、達雄さんならこんな気持ちだろうな、ふとそんなことを考え微笑んでしまつ日差しの暖かい午後でした。

イヌミ



## 『再スタート』



私が出動して、皆さんが生活するユニットのドアを開けて、二、三歩進むと部屋の中から

「おはようございます」

と野口さんの元気な声が聞こえました。いつもとは違うその声の様子に

「どつしたの?」

パジャマ姿で寝起きの為か、少しおぼつかない足どりでいつもならそのままトイレに向かうところですが、やはり何か違うと感じました。

でも、(何が?)と考える間もなく野口さんは私の腕を取り、自分の部屋に誘い入れました。

「あれ、トイレは?」私が聞くと、

「違うの。ねえ見てえ」

嬉しそうな声で、部屋に揃えられたソファや、絨毯、家電、家族との写真や雑貨を一つひとつ手招きしながら、少し興奮気味に説明してくれました。彼の自宅の部屋のような雰囲気を感じさせるその部屋を見て欲しいのだと気が付きました。

昨年九月、豊岡光生園はついに6ユニット目を稼動しました。野口さんも新しい部屋に引っ越し、ご両親が家具を揃えてくれたのでした。

思い返せば、野口さんは、ユニット内の人数の多さに不満を漏らすこともしばしばありました。それが今では、仲間や職員と話す声は明るく、散歩に出かけるときの足取りも軽そうです。まるで水を得た魚のように生き生きと生活しています。

今でもはつきり覚えている、

あの時の野口さんの声の調子。新しい生活の始まりを感じました。

武ノ内



## 『ひつあし早い春の訪れのチカラ』



春の訪れをいち早く知らせてくれる鴨川の一大スポット「菜畑」(ななばたけ)「ロード」。約一万坪の敷地いっぱい咲く「菜の花」は圧巻です。皆さんは行ったことがありますか？

実は、その近くにある図書館の花壇に咲く菜の花は、小柴さん、土井さん、鳥海さん、尾澤さんで種まきをしたものなんです。春の訪れを知らせる「チカラ」になったこと。とてもうれしく思います。



## 『みんなのEGGイベント まちづくり』

今年で四回目を迎える「かもがわ福祉でまちづくりフェスティバル」が鴨川市文化体育館で開催され、私たちも活動を紹介する「活動紹介ブース」として参加をしました。

当日は、千葉県の「ゆるキャラ」に出会ったり、たくさんの方々がブースに足を運んでくれたりと、とても貴重な交流の時間となりました。



# 祝 成人 おめでとう！ 滝口雄太さん



雄太へ。成人おめでとう。

小さい頃は、夏になるとご飯もほとんど食べずに、病気にもかかりやすく随分心配しました。でもこんなに大きくなって来て本当にうれしいです。

雄太、これからも色々なことを見て、感じて、ゆっくりと一緒に成長していこうね。 母より

## 『にやり・ホットセッション』

昼休み、複数の利用者さんでランダムにキャッチボールをしていました。中心にいた金高さんが「健さん！」「健さん！」と呼びかけて車椅子からボールを転がすと、実に嬉しそうに健さんは受け取り、車椅子に当たらないようにちよっとずらしてボールを投げ返していました。 素敵な配慮ですね……。



朝から伊原さんが、ニコニコしながら私の後を追いかけてきます。それもずっと。私はこの日、三芳にある「Yショップ 吉野屋」に数名の利用者と出かける予定があったため、そこへ一緒に行ってもらうことにしました。

お店では、前日からくじ引きイベントが行われており、まだその景品が残っているらしく、せっかくなので伊原さんにくじを引いてもらうことにしました。すると、なんと一等賞を引き当てました。お店のおばあちゃんはとても喜んでくれました。

景品は大きな「パウンドケーキ」で、この日のみんなのおやつとなりました。伊原さんには「確かな予感」があったのかもしれないね。

(にやり・ほっと報告書vol.5)



# 学園新聞



## 洗ってあげる

ももえさんはみきさんの大ファンである。こう書けば、一九七〇年代のアイドルの話かと思う人もいるかもしれない。しかし、これは湊ひかり学園のももえさんが、みきさんを見つめる熱いまなざしのことである。

暇さえあればももえさんは、横になっているみきさんをつつとりするように眺めている。職員がそうするうちに、汗を拭いてあげようとすることもある。

ももえさんの熱いまなざしは、大好きなみきさんばかりに注がれているのではない。周囲をつぶさに見ていて、必要があれば世話を焼く姿も見られる。

ある日の昼食時、いつものことだが、食堂入口の手洗い場には列ができていた。私かももえさんと共に手洗い場の前に並んだときのこと。

私が手を洗おうとすると、彼女はおもむつに私の袖をまくろうとする。  
(ちよっと待って、何?)  
と思ったが、私はさすが  
ままに自分の袖をまくっ  
てもらった。



すると、私の手にせっけんをつけ、蛇口をひねったのだ。

彼女は両手で私の左右の手をそれぞれつかんで、こすり合わせようとした。

「洗ってくれるの?」

ももえさんは目をキラキラさせて、うなずいた。

そう。ももえさんは、手を洗うことが難しい人に職員が介助するのを見て、同じようにやろうとしたのである。

「ありがとう」と私は感謝の気持ちを伝えると、彼女は微笑みをかえしてくれた。

ももえさんの他の人を手本に学ぼうとする姿勢は、私が時折忘れかけてしまいそうなものを思い出させてくれるのである。(室田)

## おはようー!

パタパタと元気な足音を立てながら部屋に入ってくる、少し体の小さな男の子。彼の名前は、たかはしけんご君。

湊ひかり学園を利用し始めたばかりの頃は緊張と不安があったのか、あまり笑顔が見られず、言葉数も少なかったけんご君。そんなけんご君が、何度か利用して慣れてきた頃から、色々な「自分」を出してくれるようになった。



たとえば、自由時間の時、彼は沢山のおもちゃで遊ぶ。色々な物事に好奇心があるため、おもちゃを出したまま、他に興味が向いてしまう。

おやつを食べ終わると、すぐ近くにあるカラオケのマイクへ……。

彼は興味がある方へと行ってしまふ。

そんな一面を見せていたけんご君。だが、最近のけんご君はあらゆることに興味が向くのは変わらなけれど、おもちゃで遊んだら少しずつ片づけるようになった。おやつも食べ終えて片づけたら、自分の席に戻り、職員と楽しそうに話をしている。また、初めて会った方に

「どろぞー!」と自分のお菓子をくれる心優しい一面も見られている。

**自分だけの世界から、他者を意識し、関わっていく世界へ。**

彼は今日も園に来て、笑顔で「おはようー!」と話しかけてくれる。それはいつも元氣にきているけんご君自身にも言っているのではないだろうか。彼の成長は止まらない。私たちも彼と一緒に成長していきたい。

(上村)

# ココ de COCO



## ボウリング行こうよ

今年度も君津圏域のグループホーム同士の交流を目的とした「ボウリングを楽しみおいしい食事をする」企画があり、金子さん、吉野さんが二年連続の参加をしました。

会場に着き、しばらくすると吉野さんに声をかける女性がいいます。

「わあ〜久しぶり!」と吉野さん。

どうやら昨年知り合った方の様です。

「山崎さん! 写真撮って! 撮って!」

とリクエストがあり、  
ツーショット写真を  
パシャリ。

いよいよゲーム開始です。隣のレーンの金子さんは、なんと! ウルトラダイナミックな両手投げ! ガーター防  
止柵つきのプレミアムレーン。渾身のスローボールは、三本のピンを倒し、

「イエー」とVサイン。

しばらくすると、ボールを布で拭いて、まるでプロボウラーの様です。



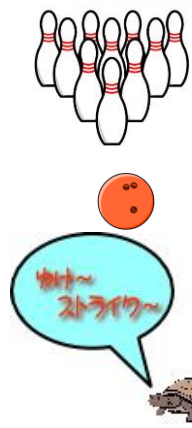
吉野さんは、最初は恐るおそる投げていましたが、まわりの声援もあり、段々と力が入ります。そしてついに、「ストライク!!」内気になりやすい吉野さん、この一投でどや顔になり、調子を上げる。スニアも沢山取りました。

ゲームも中盤。他の方々が投げる時には、今度は吉野さんが「ガンバレ」と大きな声援です。ピンを倒すたびに、金子さんも吉野さんも、仲良くなった方々とハイタッチ! いやが上にも盛り上がります。

二ゲーム楽しんだ後は、皆でワイワイと食事です。中華料理に舌鼓をうちながら、

「すごいね! 皆、優勝ねらってんだね!」  
「また来年も来ようね!」

と、次は優勝を狙ってる吉野さんと金子さんでした。



## 里山ハイキング

豊岡地区に暮らしている春男さんと博之さんが、「環南みんなの楽校」が主催する地域のイベント「里山ハイキング」に参加しました。

環南みんなの楽校では、平成二十二年に廃校となった富津市立旧環南小学校を有効活用し、志駒・山中地区の地元住民が中心となって収穫体験等を行っています。



二月の日曜日、天気予報は雨でしたが、日に開催の連絡を頂いていたので、動きやすい服装をしていざ志駒へ。集合場所には、おじさん、おばさん、親子連れと地元の方を中心にたくさんの方が集まっていました。

小学校から志駒の山を小一時間程歩くコースは、道幅が狭く、所々にスタップが入り、みんなで一列になって歩きます。春男さんには、つなぎ服を着たおじさんが、一緒に歩いてくれました。二人は、時折見つめ合い、お互いの笑顔を確認しながら、調子よく歩いていました。

一方、博之さんは、フラフラして歩いていると、スタップの一人が、杖として使っていた木の棒で手引きをしながら一緒に歩いてくれました。「だいじょうぶ?」「もうちょっとだよ」と優しい言葉をかけられ、なんとかゴールできました。

環南みんなの楽校では、年に六回程イベントを行っているそうなので、これからも出会いの機会を求めて、里山に暮らす地域の方とお知り合いになりたいと思います。 G

# 太陽のしずく

「照れ屋なふたりの」

昨年二月に入職しました。これまで障害のある方と接する機会はほとんどなく、学生時代に少し勉強した程度で、右も左もわかりませんでした。早くみなさんと打ち解けるべく、毎日を通じています。

そんなある日、私と同じ髪型（坊主頭）の笑顔がまぶしいるいさんを発見しました。妙な親近感も湧いてきて自己紹介も兼ねてあいさつに行きました。『こんにちは。山口です。』

それまで先輩職員と笑顔で過ごしていた彼でしたが、プイッと顔を背けてしまい、今までの笑顔がスーッと消えてしまいました。坊主頭という親近感もあったので解りあえると思ったのに、何度か視線を合わせてもらおうと試みましたが、全く相手にされることはありませんでした。

『なぜ？』『一生懸命者なまうた。』

『私の体が大きくて、顔もいかついからか？』『自分もなうなのだが、るいさんも照れ屋なのか？』あれこれ

考えても解らず、先輩職員には、とびっきりの笑顔を見せてくれるのに、私には、にやりともしてくれません。



それでもへこたれず、彼の事をまずは知ってほしいと思い、来る日も来る日も、あいさつをし、時にはにらめっこをしたり、必死に関わり続けた結果、ある朝私の手を握ってくれて、おでこをくっつけてくれたのです。『一生懸命で安心できて面白かった』と思っただけだったのかと、嬉しく思いました。

るいさんの気持ちの動きに、もっと深く触れることができるまで、あつどのくらいの時間がかかるかわかりませんが、確実にるいさんの気持ちにタッチできたと実感した素敵な出来事でした。



(山口)



## 「伝わった？ 伝わりました」

私がこの仕事に就いて間もないころ、夕方のゴミ捨てをあたふたとおこなっていました。そこへ千原さんがきて、私の顔を覗き込んで「あっち」と指さします。私は「そう、ゴミステーションに捨てに行きます」と応えます。そんな私に、千原さんは再び、「おい」と言いながら自身を指さし、「ゴミ袋を指さし、最後にゴミステーションの方を指さしました。

」(「ゴミを捨てに行くと言っているのに……伝わらないのかなあ？ それとも私に何か用があるのかしら？)」と思いました。

そこで私は、千原さんが言うことを確かめようと、「もう一回ゆっくりお願いします」と伝えました。千原さん同じ順番でゆっくり繰り返します。自身の顔、ゴミ袋、ゴミステーションを指さすのです。(あつ？)まさかかと思い、「千原さん、袋持つの手伝ってくれるんですか？」

と聞きました。すると、私の言葉が伝わったのか、嬉しそうに「はい！」と答えられました。袋を持ち、



「ゴミステーションに行く千原さんの顔は、とてもにこやかで、全身を震わせて喜んでいようでした。彼の後姿に、「なかなか気づけずごめんない」と伝えました。

「手伝うよ」の一言を相手に伝えることの難しさ。日頃の伝わらないもどかしさと伝えられたときの喜び。そのことを気づかせてもらいました。

今日のおしごとや今日お休みの方など色々な話をしてる千原さん。慣れないうちはあまり話しかけることがなかったのですが、今では自然と千原さんから話しかけてくれます。

「おーいー」

「千原さん、どうしたのですか？」今日も千原さんとたくさんお話していきたいです。

(今井)



# 光陽

『あの頃は……現在～過去～未来』

普段、あまりお話しせず物静かな佐藤さんにたずねました。

「昔の、えーと、若い頃の自分に何か言っておけるとしたら、なんて言いますか？」

「うん、昔ねえ」

遠くを見るようなお顔で暫くの沈黙のあと、

「なんせ、銭がねったからなあ」

とひと言。

「そっですか。お金に苦労したんですね。——」

「だってほんと……」

佐藤さんが口ごもっているのに頓着せず、矢継ぎ早にたずねました。

「あの時……っていわねば、お金に困らないから、こうしてけよとか、今の佐藤さんから若い頃の佐藤さんに、教えたの、伝えたりしたこと、色々あるでしょっ？」

「それがねえ、ずーっと今も思いつかねーから、銭がねーだよ」

笑いながら佐藤さんは、話を続けられた。

「子供らも、どうにかこうにか嫁に出せたから、まあ、良しとするかなあ」

ゆっくるとした口調で佐藤さんは柔らかく笑った。

「それでは、未来の自分に、一言ありますか？——佐藤さんは即答だった。

「それこそわかんねーや」

「先のことば、おめーらが、うめーことやってくれんじゃあねーのか？」

「そ、そうですね。そのとおりです！——」

未来の佐藤さんのこと、受け賜りました。

春名

『沈黙……』

最近、外食に行っていない方に、「何が食べたい？」と尋ねると、

「そりゃあお寿司でしょうー！」

皆さんの言ってお寿司とは「マグロの握り」のことです。後日に出前を頼むことに決めました。

何日か待ちわびた後に、お寿司が届いた日のことです。

いつもなら「美味しー」が口癖の奥山さんも、何も言わずお寿司を口に運んでいます。周りを

を見渡すと、皆一様に、表情一つ変えず、黙々と箸を動かしています。

食することに集中するあまり、誰もしゃべらず、延々と沈黙の時間が続きました。

私は、もっと「美味しいね」と皆から声が出て、幸せそうな顔になることを想像していたのですが……。

印象的で気持ちにグッと迫る「沈黙」の光景が目前にあったのです。



人は本当に美味しい物を食べた時、沈黙してしまうのでしょうか？ 私は、それが人間の本質のように思えたのです。

はたして、この「沈黙」は、お寿司に渴望している印なのでしょうか。それとも至福の時の恍惚の印なのでしょうか。

神様も教えてくれず、沈黙したままです。

石井

『気がなすかた』

私、どうしても気になります。

朝のベッドメイキングをしていた私。青木さんのブックブックを誤って倒してしまった。

あっ、いけね！ 慌てて直す。

記憶を頼りに本を置く。青木さんは野球好きだから、野球の本が一番手前だったかなと置いてみる。そうしているうちに食事の時間になった。

食後の歯磨きを終え、再び青木さんの居室に何う何と、野球の本を置いた場所には、

あのムフフな写真が載っている

「週刊ポト」が置いてある。

え？ 朝食後の憩いのひと時

に見ていたのですか青木さん。

気になります。

田中



— 編集後記 —

山々の杉の木も黄色く花開き、目のかゆみやくしゃみの症状に春の到来を身にしみ感じております。中庭に遊歩道もでき、これからのシーズン、中庭で何をしようか日々思案中です。

～ 広報委員 ～